

上で、他の文との関係には特別の配慮が必要です。

そこで、主題を展開していく方法について代表的なものを次にあげてみましょう。

### (1) 仮説から結論へと導く(仮定)

「豊かさ」とは物質的に不自由さが無いということではなく、人間としての心の豊かさではなからうか。そうだとすれば、個々人が幸せを感じるためにも、社会での共生、福祉の充実などを実現していくべきである。

仮説を立てて結論まで組み立てていくものです。推論・論証は妥当か、根拠は十分かを検証し、必要に応じて仮説を修正するようにします。

### (2) 物事の進行する過程に従って配列する(帰結)

待機児童の問題が深刻化する中、保育所の新設を促進する取り組みが急務である。となると、地域の住民の要望に耳を傾け、保育所の開園に理解を得ることがまず必要であろう。

ある物事が起こり、そこから次の物事が起こるといふように出来事や動きを発生した順に並べていくものです。その場合、古いものから順に並べることもあれば、新しいものから時間を遡るように並べる場合もあります。

(3) 前に述べた事柄から予想されることは異なる事柄を導く(逆接)

世界のどの地域の人々も経済的な豊かさを追い求め、快適さと便利さを享受できる権利がある。しかし、地球の資源には自ずから限界があり、環境破壊は人類を危機に陥らせかねない。

前の文から順当に導かれる内容でないことを後に述べるものです。読み手に意外性を与えたり、論理の正当性を強調したりするなど、別の角度からの見方を提示し、文章の単調さを回避します。

(4) 原因・理由から結果へと導く(因果)

英語は今や国際共通語である。したがって、日本を世界に発信するためにも、高度な英語力を身につける必要がある。

ある考えや感想を述べる場合、まず原因・理由や事実をあげて相手を納得させ、それから結果や感想に移っていくと、理解が自然な形で行われます。

(5) 結果から原因・理由へと導く(根拠)

高齢者は脳卒中や骨折などの治療が終わっても、すぐにはもとの生活に戻ることができない。なぜならば、リハビリがきちんと行える病院が少ないからだ。

## 原因を示して結果を述べる（因果）

いくつかの事柄がある中で、一方が原因、他方が結果である関係を「因果関係」と言います。ある物事が原因となつて、そこから一つの事態が結果として導き出されたというつながりのことですが、ある事柄を理由・根拠として、そこから結論が導き出されるというように述べる場合も同じです。

野球を続けられれば、条件はない。韓国、台湾も視野にいれる。「僕は野球をやってきて楽しい人生だった。だから、自分から辞めるのはもったいない」。(朝日新聞二〇二二年十一月十三日)

因果関係を表す言い方は、次のように大きく三つに分類することができます。

- (1) 因果関係を示す……だから そのため それで そうすること で ゆえに よって  
したがって 以上から
- (2) よい、または悪い結果を導く……おかげで そのせいで
- (3) 原因・理由を強調する……それだけに だからこそ

では、例題の後、それぞれの説明に移りましょう。

「例題5」( ) 内に最も適当なことを次のa～cから選びなさい。

近頃、スマホ代が高くなっている。( )、別のプランを考えてみることにしよう。

- a. 以上から
- b. そのため
- c. だから

(正解は  
P.105)

### (1) 因果関係を示す だから

《前に述べた事柄を原因・理由として、それから当然の結果・結論として引き出される事柄を次に導く》

実は、忘れようとすればするほど、記憶にその失敗が深く刻みつけられるのである。**だから**すぐに思い出してしまうという仕組みになっている。(斎藤茂太「会社、仕事、人間関係が「もうイヤだ!」

と思ったとき読む本」あさ出版 二〇〇四)

客観的な判断に基づく事柄を後件に導くものですが、因果関係が明示されている場合には、後件に話し手の意志や主観的な判断が示されることもあります。